

人と社会をむすぶソーシャルワークを社会学的に再検討する
—総合的社会認識の福祉教育の可能性—

日時 2018年10月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 5階 501講義室 ※通常と会場が異なりますのでご注意ください。
(建物は同じです)

講師 西川 知亨 (人間健康学部准教授)

生活困窮、高齢化、介護などの問題をはじめ、現代では多くの福祉的課題が累積し、十分な支援が行き届かずに多くの人々の人権が脅かされている。そのような課題の解決を目指す実践的な方法として、人と社会をとりむすぶ「ソーシャルワーク」が注目されている。しかしながら、日本のある著名なソーシャルワーカーは、自身が学生時代に受けた授業をふりかえり、マイクロレベルの面接技術教育等に傾倒していて、ソーシャルワークの授業は面白くなかったといった趣旨のことを述べ、さらには「ソーシャルワーク教育は失敗した」とまで言っている（『福祉新聞』2015年11月18日）。

現代の日本の福祉の授業では、マイクロな場面でのコミュニケーションについては非常に効果的な支援法を提供してきたが、他方で、福祉的課題の構造的要因や社会的背景が不可視化されてしまうこともある。こうした教育をひとつの背景として、多くの福祉の現場においても、支援が持続しなかったり、福祉従事者のバーンアウト（＝燃え尽き症候群）を引き起こしたりするなど、より良好で有効な相談援助となるためには課題を残していると思われる。これは本学人間健康学部（「ユーモアプログラム」など）でよく用いられている言葉を用いれば、笑いや知的好奇心を喚起させる「異元結合」（異なる次元のものを結合させて別次元のものを生成させる所作）がない状態であり、総合的な問題要因分析が必要である状態である。しかし、ベテランのソーシャルワーカーは、実際に福祉の現場において、上記の問題を解決するような実践を行っていることも事実である。

そこで本講座においては、福祉における課題を総合的に検討することはいかにして可能となるか考えたい。具体的には、シカゴ学派社会生態学を補助線として、さまざまな福祉の現場で実践され、社会福祉士養成校などにおいて教育されているソーシャルワークおよびその教育法について、社会学的再検討を試みる。

本講座で扱うのは、第1に、【理論編】として、「シカゴ学派の社会生態学」である。これには、生活史（ライフヒストリー）や第二次シカゴ学派の相互作用秩序論の考え方も射程に入れる。第2に、【実証編】として、上記のシカゴ学派の社会学のパースペクティブを活用した「貧困対抗活動の生態系論」について紹介する。第3に、【実践編】として、現代社会における「男性による育児」（拙編著『くオトコの育児』の社会学）参照）に関する家族福祉実践について検討する。第4に、【教育編】として、本学人間健康学部の社会福祉士養成課程の授業で行われている教育実践について紹介したい。これらを通じて、「社会学的想像力」（ミルズ）を展開させ、社会学的な検討を加えたソーシャルワーク論の構想を目指したい。新時代の人権・福祉社会の構築に向けて、また現代社会において多くの人が問題発見力とコントロール力を高めるささやかな武器として、人と社会をつなぐソーシャルワークの手法をもつ可能性について考察したい。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。
手話通訳が必要な場合は、10月11日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>